

古書店の社会的系譜に着目した店舗空間と古書店主の意図に関する研究

A study on the store space and the intentions of secondhand bookstore owners focusing on the social genealogy of secondhand bookstores.

射和 沙季

IZAWA, Saki

概要： 神保町は多様な古書店が集積する世界最大の歴史的な古書店街だが、活気が衰退する可能性がある。そこで今後の神保町の古書店のあり方を模索する目的に経営時の古書店主の工夫や決断が空間に影響を与えるか明らかにする。まず、出版業界や神保町の古書業界の現状を把握する事で産業構造を明らかにした。また、これまで神保町古書店街の形成の変遷を把握するため、「古書店街の店舗構成の歴史的変遷」や「古書店の社会関係」を明らかにした。さらに、京都の古書店街と比較する事で神保町特有の店舗構成要素を明らかにした。その後、現在の古書店の空間形態を把握した上で歴史的系譜や社会関係に照らした各店舗の空間形態の実態を分析した。また、今後継承される空間形態と今後のあり方を模索するために古書店主の空間形態に対する意図や自覚の有無をアンケート調査から明らかにした。

Summary: Jimbocho is the world's largest historic bookstore district with a variety of antiquarian bookstores, but its vibrancy can decline. Therefore, for the purpose of exploring the future of secondhand bookstores in Jimbocho, we will clarify how the ideas and decisions of secondhand bookstore owners during management will affect the space. In this research, we first clarify the industrial structure by grasping the current situation of the publishing industry and the old book industry in Jimbocho, and to grasp the transition of the formation of the old bookstore district in Jimbocho, "Historical transition of the storefront of the secondhand bookstore district" "Social relations of secondhand bookstore " was clarified. In addition, we were able to clarify the store components unique to Jimbocho by comparing it with the old bookstore district in Kyoto. After that, after grasping the current spatial form of secondhand bookstores, we analyzed the actual state of the spatial form of each store considering historical genealogy and social relations. From the questionnaire survey, it was clarified whether the owner of the secondhand bookstore is aware of the intention of the space form to be inherited in the future and the future way.

キーワード: 神保町・古書店・滲み出し空間・ファサード・師弟関係・継承

Keywords: Jimbocho, Secondhand Bookstore, Exuding Space, Facade, Teacher-Apprentice relationship, Inheritance

1. はじめに 神保町は多様な古書店が集積する世界最大の歴史的な古書店街だが、活気が衰退する可能性がある¹⁾。そこで本研究では今後の神保町のあり方の知見を得るために、古書店主の工夫や決断により日々変化しながら維持されている各店舗空間形態と神保町古書店街を形成させている古書店主の店舗構成に対する意図との関係や課題を明らかにする事を目的とする。そこで本研究では以下の4点を明らかにする。

① 出版業界の現状を文献調査から整理した上で古書業界の現状を明らかにする。

②各店舗構成要素の歴史的変遷をまとめた上で、古書店主の意図に大きく影響すると考えられる親戚・師弟関係等の社会的系譜を明らかにする。また、日本最古の古書店街を持つ京都の古書店と比較する事で神保町特有の空間形態を明らかにする。

③これまでの神保町の古書店街に着目した研究は神保町全体の空間形態を明らかにする目的に群として捉えた空間形態分析が多い。つまり、本研究の様に店主が古書店を経営する時の工夫や決断がどの様に滲み出し空間やファサードに影響を与えているか明らかにするには不十分である。そこでまず各店舗の空間形態を整理した上で、

②で明らかにした事と照らし合わせる事で古書店主の意図と空間の関係を明らかにする。

④ ③で明らかにした店舗構成に対する古書店主の意図や意図に対する自覚の有無を明らかにし、今後継承される店舗構成や現在の古書店主の意図の歴史的な位置づけと課題を整理する。

2. 研究の方法と対象地域 研究にあたってまず、出版業界の現状を(1)文献調査から整理した上で古書業界の現状を産業構造から整理する。さらに古書店主の意図に大きく影響すると考えられる親戚・師弟関係等や共同建て替えといった社会的系譜を明らかにする。また、文献や古写真をもとに神保町古書店街の店舗構成の歴史的変遷を明らかにする。次に(2)空間形態調査から古書店の滲み出し空間とファサードを分析し、空間に影響を与えている要素を明らかにする。また、その要素から古書店主の空間決定要因について仮説を立てる。さらに、空間形態調査で立てた仮説を検証する目的で古書店主を対象に(3)アンケート調査を実施する。この調査は空間形態調査で明らかになった各店舗の構成要素に対してどのような古書店主の意図があるか明らかにする目的で実施する。

また、古書店主の意図に対する自覚の有無を明らかに

する事で、今後継承される店舗構成要素と継承されない店舗構成要素を明らかにする。

対象地域は「BOOK TOWN じんぼう」に掲載されている公式MAPから街と接続していない「事務所形態」を除外し、図1の一階に店舗を構える古書店75店舗とした。



図1:対象地域

3 出版業界及び神保町古書店街の特性の把握

出版業界の流通形態等の産業構造及び現状に対する各業態の取り組みを整理した結果、今後古書店の空間形態を分析する時に、古書店主の意図を明確にする必要がある事が分かった。そして古書店主の意図を正確に把握するために、まず神保町で古書店を営む店主の置かれている環境を整理する目的に古書業界構造を整理した。そして整理した事を元に古書店が実施している取り組みについて分析した結果、神保町に立地する古書店は他の出版物を扱う業態と違い、「各店舗の魅力向上」に加えて、「神保町の魅力向上」にも影響を与える事が分かった。

しかし、同業種が集積する事による神保町の魅力向上につながる取り組みについて明らかにしていない。そこで本研究の目的を考慮すると図2の「本研究対象」の部分を明らかにする必要がある事が分かった。

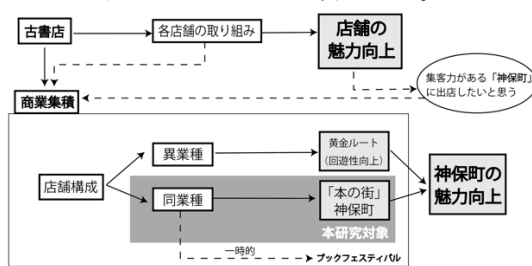


図2:神保町の魅力向上と古書店が与える影響との関係

4. 古書店の意匠史と古書店主の社会的関係

4-1. 書店意匠史 本節では神保町の古書店で多く見られる店舗構成要素の変遷を明らかにし、図3の様に整理する事が出来た。各店舗構成要素の導入時期を分析すると技術の発展により導入された「技術的店舗構成要素」と社会的背景が理由で導入した「社会的店舗構成要素」が挙げられた。技術的店舗構成要素の「土間式」や「開

架式」が客の本を見る目を養い、その後「ショーウィンドウ」のようなメディア機能が導入された事や2000年以降はインターネットが発達し事務所形態が誕生した事が明らかになった。また、「社会的店舗構成要素」である「滲み出し空間」は、円本ブームによる本の増加や、露店の販売が大きく影響した事も分かった。

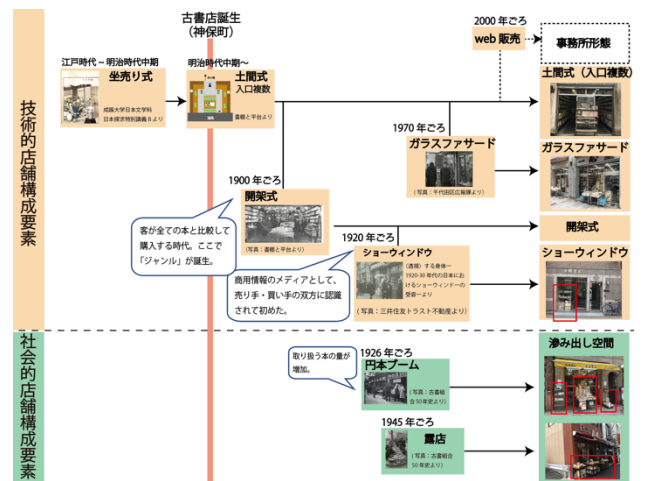


図3:店舗構成要素の変遷

4-2. 神保町の古書店らしい空間要素の抽出

神保町固有の店舗空間の特性を明らかにするために、日本最古の古書店街を持つ京都の古書店と比較した。今回比較する店舗は街と接続する1階に店舗を構える古書店とし、神保町の古書店を「BOOKTOWN じんぼう」²⁾から75店舗抽出し、京都の古書店を「京都古書組合」に所属する店舗一覧から51店舗抽出した。分析方法はGoogleストリートビューや各店舗の公式ホームページから京都の古書店のファサード分析を実施した上で、神保町で実施した空間形態調査のデータを元に比較した。

比較した結果、「入口の数が複数ある」「滲み出し空間」は神保町特有の店構えである事が明らかになった。また、入口が複数ある店舗が集積すると図4のように一筆書きで古書を巡るような回遊行動が見られる。これは神保町のみで見られる光景であり、入口が複数設ける事で生まれる回遊行動ではないかと予測する事が出来た。

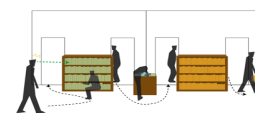


図4:入口が複数ある店舗で見られる回遊行動

4-4. 神保町古書店の社会関係の整理

神保町の街と接続している滲み出し空間とファサードに影響を与える要素を明らかにした上で古書店主の思考を可視化するには古書店主の社会的関係性を明らかにする必要がある。そこでまず、神保町の古書店主が持つ社会的関係である師弟・親戚関係を明らかにした。その結果、以下の3点が明らかになった。

- ①親戚・師弟関係が店構えに影響を与える。
- ②靖国通り南側は比較的大きな系譜に属する傾向がある。
- ③修行先の古書店の専門を受け継ぐよりも、ジャンルや専門分野が分岐する傾向が強い。

4—5. 共同建て替えを実施した古書店主の意図 神保町のみで見られる古書店主による共同建て替えについて整理した。また、共同建て替えを実施した古書店主の意図が空間にどのように反映しているか分析した結果以下の2点を明らかにする事ができた。

①古書店主が主体的に行った共同建て替えは必ず「一誠堂系譜」「高山書店系譜」「南海堂書店系譜」に属する古書店が参加している。

②古書店主が主体的に行った共同建て替えは各店舗にこだわりがあり、各店舗構成要素、入口の数の全てが一致する店舗はほとんど見られなかった。また、古書店主の意図が店構えに影響する事がある事を明らかにする事が出来た。そして、全ての項目が完全に一致する場合は以下の要因が考えられた。

- ・師弟・親戚関係が大きく影響している。
- ・扱っている古書の専門内容が共通している。

4—6. 滲み出し空間の管理現状 社会的店舗構成要素である滲み出し空間は警察により完全に管理されているものではなく、神保町の古書店主の間で自主的に歩行障害と町の魅力のバランスを考えながら管理されている空間である事が分かった³⁾。

5. 神保町の古書店空間形態調査

5—1. 空間形態調査概要 空間形態調査は現在神保町で古書店を営む店主の意図が古書店の店構えにどのように影響しているか明らかにする事を目的に実施する。空間形態調査を行うにあたってまず古書店主の意思で何度も変更できない建物の「ファサード」と、日頃から変更可能な「滲み出し空間」に分けて分析した。「ファサード分析」は大きく2つに分けて実施した。1つ目はセットバックの有無やガラス面の有無、ショーウィンドウの有無といった店舗構成要素の分析である。2つ目は入口の個数調査を実施した。

5—2. ファサード調査(店舗構成要素) 元々古書店が集積していた靖国通り南側や白山通り西側は大通りに面しており、日差しが入らないためセットバックする必要がない。そして、戦後GHQによる滲み出し空間の禁止によりショーウィンドウが導入された。また、1965年の板ガラス開発によりガラス面が設けられた。以上の背景から神保町の古書店で最も基本的なファサードは分類B・Cであり、分類Bが現在も最も多く見られた。

しかし、古書店が増える事で路地や日差しが当たる場所等に古書店が進出する場合がある。その場合セットバックを設ける店舗が見られた。また、店内が見えない壁型のファサードを持つ分類A・Dといった古書店も見られるようになった。これは、オフィス等を想定した店舗にインターネットが普及する事で入居する事ができる様にな

ったからではないかと考えられる。また、古書店が撤退した後にテナントを誘致することを考えて、テナントの業態を狭める可能性があるショーウィンドウが避ける傾向がある事を明らかにした。以上の背景から所有状況によってファサードに違いが生まれたと考えられた。

また、共同建て替えでは外壁の素材を統一するなど古書店主のファサードに対するこだわりがあった事や、一誠堂系譜といった特定の系譜が集中する靖国通り南側で分類Bの割合が高い事から師弟・親戚関係等も影響していると考えられた。しかし、建てられた時期によって取り入れられる店舗構成要素に大きな差は見られなかった。

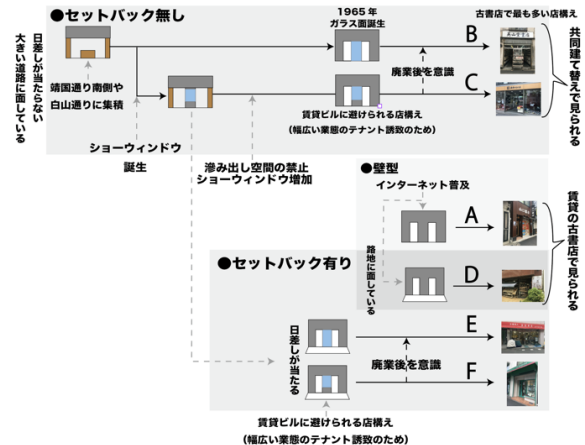


図5:入口が複数ある店舗で見られる回遊行動

5—3. ファサード調査(入口の数) 神保町の古書店に1965年頃に外壁が誕生し、外壁が出来た事で建物に入口が備えられる様になった。また、靖国通りの南側や白山通りのように古書店が集積しているエリアでは入り口が2つある事が基本的な店構えであったと考えられた。この店構えのメリットとして一筆書きで古書店を巡りやすいというメリットが考えられる。

1970年代頃は隣接する店舗が閉店した時に拡張し、入口を増やす店舗が見られた。このような拡張をした店舗は一誠堂系譜に属した店舗である。その名残として靖国通り南側に入口を3つ設けた店舗が見られる。

しかし、1980年代から近代にかけて入口が1つである店舗が増加傾向であり、原因は2つ考えられる。1つ目は近隣の古書店が無くなった事やインターネットの普及により一筆書きで回遊する人が減り、入口を複数設けるメリットが無くなった事である。2つ目は店を廃業した後、テナント募集する際に古書店が入居する可能性が低い為、一般的な店構え(入口1つ)にする傾向がある事である。さらに、インターネットの普及で、古書店が営まれる事を想定していないテナント(入口1つ)に入居する古書店が増えた事である。

以上から入口を複数設ける店舗は、建物の継承等により靖国通り南側や白山通りで現在もみられるが、今後建て替え等実施した場合、神保町の特徴である入口を複数設けた古書店が減る可能性がある。

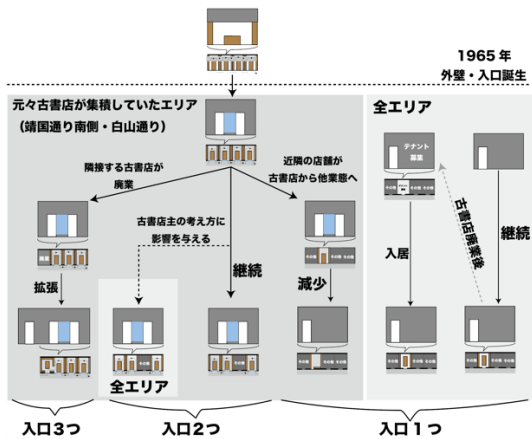


図 6: 入口が複数ある店舗で見られる回遊行動

5—3. 滲み出し調査

滲み出し調査から滲み出し空間は以下の7つの要因がある事が明らかになった。

- 要因①：日差しを避けるため
- 要因②：道路の道幅
- 要因③：近隣関係
- 要因④：ジャンル
- 要因⑤：建物の構造の関係
- 要因⑥：師弟・親戚関係
- 要因⑦：古書店主の意思

これらの要因を元に全店舗の滲み出し状況と滲み出し要因との関係をまとめた結果が図7である。

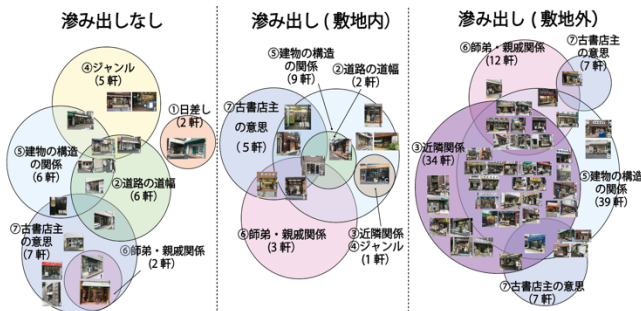


図 7: 滲み出し状況と滲み出し要因との関係

6. 古書店主の店構えに対する意図と自覚の有無

6—1. 店構えに対する古書店主の自覚の有無 古書店主の意図と店舗空間との関係性の整合性をとる事を目的に古書店主へアンケート調査した結果以下の2点を明らかにした。

1. 古書店主が無意識に店舗構成要素を決定している事や先代等から意図が継承されていない事。
2. 店舗構成や立地等に対して一部の古書店主がどのような意図を持って決定しているか。

6—2. 古書店主の意図の歴史の変遷 本節では神保町で古書店を営む古書店主の意図の歴史の変遷をまとめる事で、現在の古書店主の意図の歴史的位置づけを示し、現在の古書店主の課題を明らかにする。まず、古書店主の意図に大きく関わる出来事に対して古書店主がどのような意図を持ち、変化したか4つの期間に分けて分析した。

『古書専門店街の骨格形成期』では神田大火や関東大

震災により靖国通り南側に古書店街が形成された。多くの古書店主は「靖国通り南側」に店舗を構える事を目標に各店舗が店舗の魅力向上に注力したと考えた。『復興期』では露店の取り締まり強化により多くの店舗が神保町に店舗を構えた。これにより長く神保町で商いを続けるために互いに協力して神保町の「本の街」というブランドを向上に繋げる意識が生まれたと考えられた。『地上げ対抗期』では古書店街の存続の危機に直面した期間であり、古書店主は商いを継続するために団結力を高めたと考える。『デジタル期』ではインターネットの普及等により古書店主は店舗を構えて古書店を営む意義を考える機会が増えたと推測する。つまり復興期や地上げ屋対抗期の時と違い、個々の店舗が事務所型の店舗等に負けない様に店舗の魅力の向上に注力した状態であると推測した。

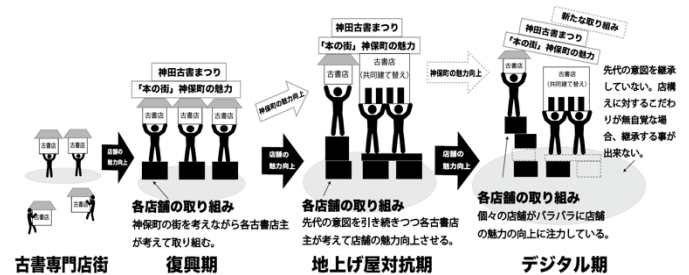


図 8: 各期間の古書店主の意図

7. 総論 本研究では出版業界の現状を整理した上で古書業界や古書店主の意図に大きく影響する親戚・師弟関係等の社会的系譜を明らかにした。また、店舗構成要素の歴史の変遷や各店舗の空間形態を明らかにした。そして、各店舗の空間形態を決定している古書店主の意図との関係を明らかにした。しかし、多くの古書店主が空間形態に対する意図が無自覚であった事や先代の空間形態に対する意図が継承していない事を明らかにした。以上からデジタル期中である現在の古書店主は復興期や地上げ対抗期に比べて各店舗の取り組みに注力されており、このままでは同業種が集積する事による魅力が低減し、神保町の魅力に影響するリスクがあると言える。

以上から現在実施されている各店舗のサービス向上に加えて、神保町古書店街の街並みの一部としての店舗空間を考えていく必要がある。そのために、まずなぜ現在の店構えにしたのか、又は継承されたのか古書店主が現状の店舗空間に対して理解を深める必要があると考える。

参考文献

- 1) 茂野 夏実・田村 誠邦・山本俊哉・中島伸・堀 啓二・小林 正美 「神保町古書店街の将来像と建て替えに関する古書店主の意向 - 「本の街」神保町のまちづくりに関する研究(3)-」『日本建築学会大会学術講演梗概集』2018年 Vol. 2018, pp. 393-394
- 2) 神田古書連盟、「本の街」神田神保町オフィシャルサイト
- 3) 高山元気 「神田神保町の店舗前空間の利用に関する研究 -地域組織と地域ルールに着目して-」『東京都市大学卒業論文』2019年, p. 90